

# バリアフリー ピクトグラムデザインコンペ 結果報告

主 催

宇都宮大学 地域デザイン科学部附属

地域デザインセンター

2022年3月7日

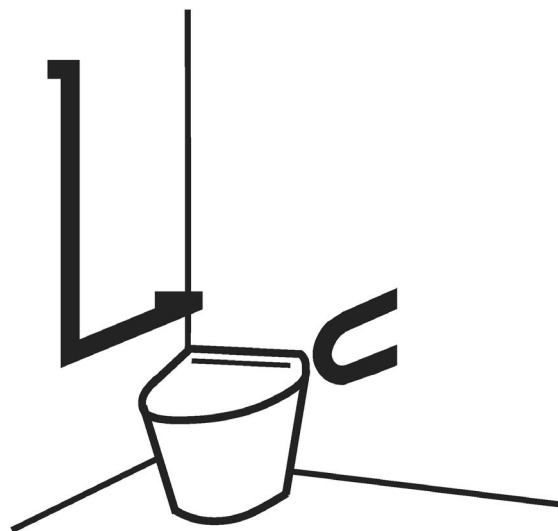
# 入賞作品

厳正な審査の結果、以下の最優秀賞1点・優秀賞2点が選出された。

応募総数：13点 応募者：13組 15名（12～27歳）

審査委員：土橋 喜人（地域デザイン科学部 客員教授・審査委員長）  
大森 宣暁（地域デザイン科学部 教授）  
大塚 訓平（NPO法人アクセシブル・ラボ 代表理事）

## 最優秀賞



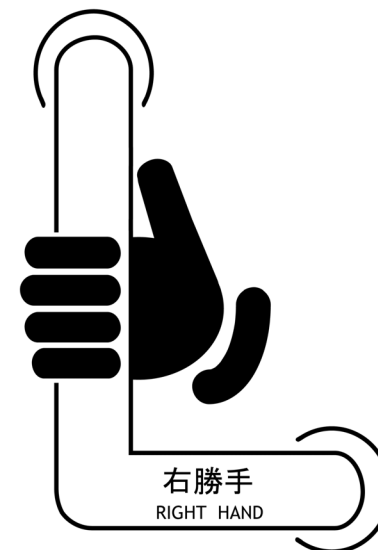
建築都市デザイン学科3年  
東田雄崇さん

## 優秀賞



建築都市デザイン学科3年  
須田麻友さん

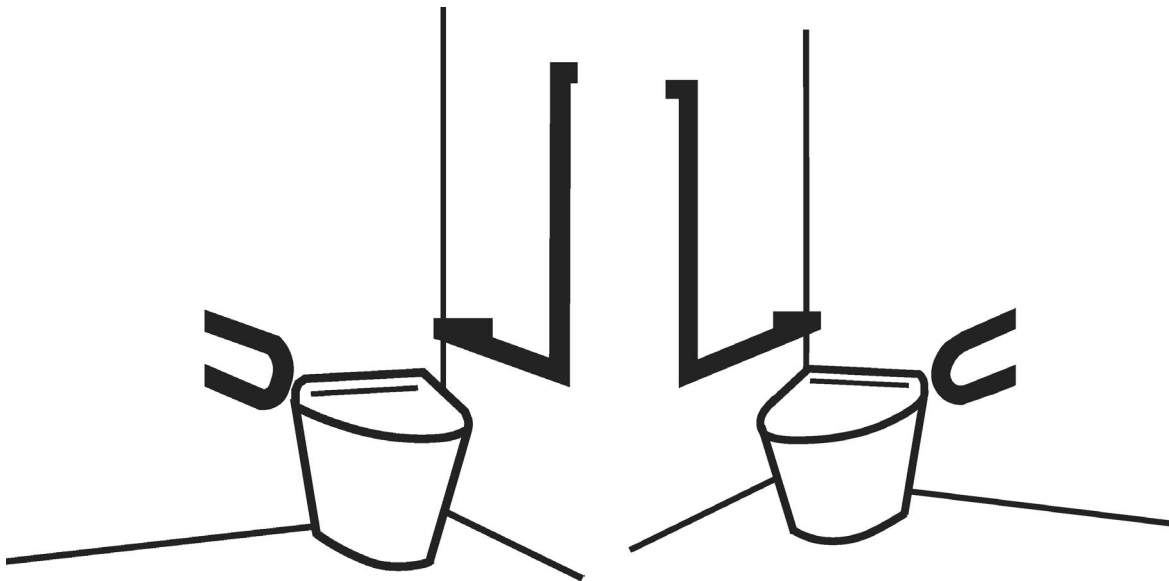
## 優秀賞



建築都市デザイン学科4年  
古謝正太郎さん

# 最優秀賞

建築都市デザイン学科3年 東田雄崇さん



## 審査員のコメント

土橋喜人先生より

- ・シンプルで、かつ分かりやすい。
- ・補足情報なしに、自分が使いやすいトイレかどうか直感的に分かる。
- ・絵みtainな表現が分かりやすい一方で、ピクトとして成り立つかどうか。

大塚訓平さんより

- ・空間が把握しやすい。
- ・ピクトグラムは二次元の表現という一般認識から立ち返った、学生ならではの面白さがある。
- ・線的な表現がマップになったとき分かるかどうか。

大森宣暁先生より

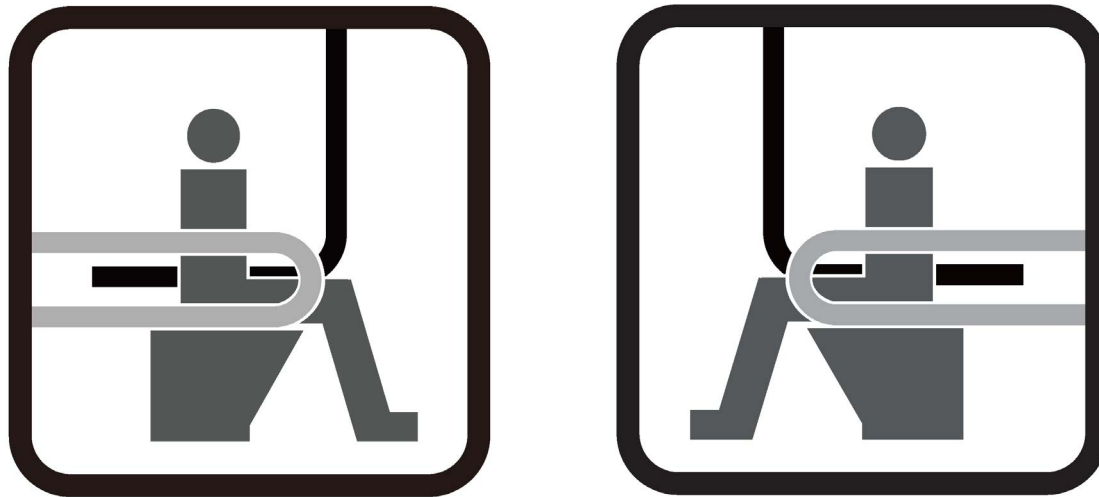
- ・あえて三次元で考えたのが新しい。
- ・分かりやすい。

私たちの住む世界は3次元である一方でピクトグラムは2次元で構成されたものがほとんどである。この次元の違いから伝わりにくいピクトグラムを見かけるときがある。また、L字手すりや跳ね上げ式手すりは平面的または断面的な情報だと形が伝わりにくい。以上の2点から断面的かつ平面的な情報を持つ3次元でピクトグラムを表現する。

また、バリアフリートイレの左右勝手という細かな違いを伝えるためには、バリアフリートイレの特定の情報（手すりやトイレの位置など）を抽出し簡潔に表現することが必要だと感じた。そのため、今回は手すり、トイレ、壁、床という伝えたい情報のみで構成した。

# 優秀賞

建築都市デザイン学科3年 須田麻友さん



## 審査員のコメント

土橋喜人先生より

- ・ピクトとして分かりやすい。
- ・色数が多いと、色が分かりづらいかもしれない。

大塚訓平さんより

- ・車椅子ユーザーからすると分かりやすい。
- ・3色使っているため、色弱や弱視の方には色が判別しづらいことがある。

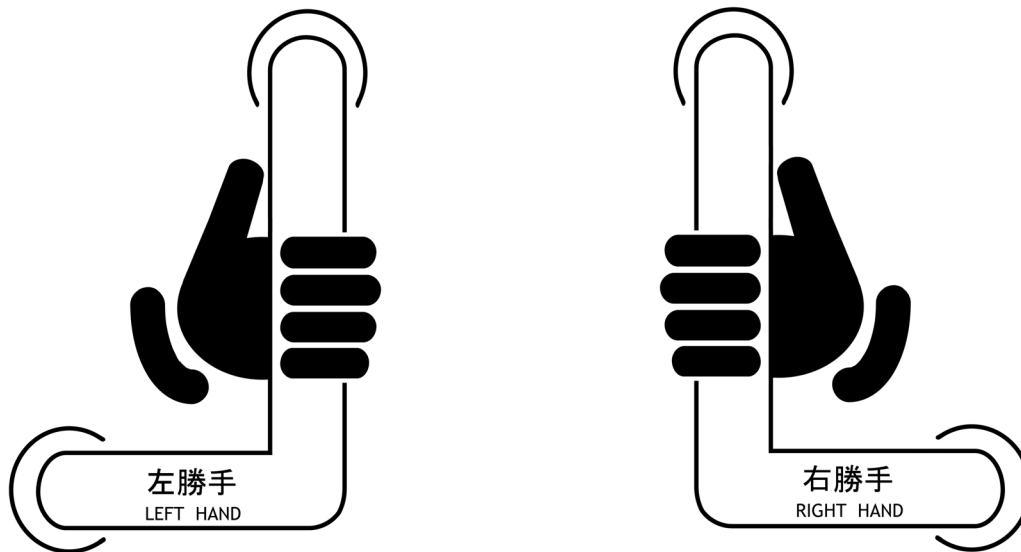
大森宣暁先生より

- ・複雑に見えて分かりやすい。

利用者をイメージしたピクトグラムに対して、右と左のどちらにどのような手すりがあるかを分かるようなピクトグラムにした。壁側であり、身体障がい者が自分の体を支えるために使いやすいL字手すりがどちらにあるか分かるのが障がい者にとっては重要であると考えたため、L字の手すりを濃く表現し、跳ね上げ式の手すりは薄く表現した。また、L字手すりがあるのは壁側であること、トイレの利用者がL字手すりを頼りにつかまることを考えると、介助者が立つのはL字手すりの反対側であることがわかるので、どちらに介助者が立てるスペースがあるかという表現は省略した。

# 優秀賞

建築都市デザイン学科4年 古謝正太郎さん



## 審査員のコメント

土橋喜人先生より

- ・どちらの手で手すりをつかむのか直感的に分かる。
- ・トイレかどうか分からないが、他のピクトと併用することによって分かりやすいものになるかもしれない。

大塚訓平さんより

- ・確かにこう握るよな、と。左右が分かりやすい。
- ・一方で、トイレであることは分かりにくい。
- ・L字手すりをこのように掴まない人もいる。

大森宣暁先生より

- ・分かる人には分かりやすいデザイン。
- ・トイレかどうか分からない。

国土交通省総合政策局安心生活政策課の「多様な利用者に配慮したトイレの整備方策に関する調査研究報告書（平成24年3月）」によると、トイレの入り口でトイレ内レイアウトを確認する利用者は「初めての使用だと確認する＝39.0%」「いつも確認する＝15.2%」で合計54.2%と半数以上となり、利用者にとってバリアフリートイレの左右勝手の重要性が伺える。左右半身が不自由な人の場合、L字手すりやペーパー、洗浄ボタンが不自由のない側に設置されていることが安全で使いやすいことになる。このピクトグラムはL字手すりを掴んだ手を描くことで左右勝手を表現したものであり、左右の解釈や言語の壁といった左右勝手を伝える上での課題を1アクションで解決する。それは利用者が自身の手でピクトグラムを真似ることである。自身の右手がピクトグラムと同じになれば右勝手、左手と同じになれば左勝手にレイアウトされていると確認できる。

# 総 評



今回のコンペには短期間の募集にもかかわらず想定以上に多くの応募があり、主催者一同、喜んでおります。また提出された作品のクオリティについても、いずれも真剣に取り組んだ形跡が見られました。

多機能トイレの右勝手・左勝手は、導入されて十数年であり、まだ日本の中でも統一されたピクトもなく、国内でも一部の施設にしか取り入れられていません。そして世界でもこのような左右勝手のある多機能トイレを取り入れている国はわずかです。その為、今回のコンペは挑戦的であり、世界標準も目指すことができるものです。

選に漏れた作品は、わかりやすさ、に不足がありました。場所がトイレなのかどこなのかわからないものがありました。多かったのは「右」や「左」、「Right」や「Left」等の文字が使われていましたが、右勝手—左勝手、右利き—左利き、右麻痺—左麻痺、等が多様な解釈があり、直感的にわかりにくく選外としました。ピクトで表現しようと試みたものもありましたが、直感的にはわかりにくいとの評価となりました。

その中で、表彰された3点は、いずれも一目でわかるものであり、利用者が考えずとも直感的にわかるものが選ばれました。優秀賞の1点目は手すりを握っていることで直ぐにどちらの手で操作するのかがわかります。2点目はピクトらしいデザインで使い方もわかりやすいです。最優秀賞は、見たものズバリでわかりやすく、三次元でピクトを表現した点が高く評価されました。

いずれの応募作品も工夫を凝らし、ユニークな発想に基づいており、バリアフリーの実務や研究に詳しい審査員一同も非常に迷う選考となりました。今後の皆様のご活躍を期待しております。

審査委員長 土橋喜人先生

# 表彰式（3月2日）

3月2日には、地域デザインセンターで表彰式が行われ、土橋審査委員長から学部長名による賞状が手渡された。

また、コンペ実施のきっかけとなったカンセキスタジアムの担当のお二方も同席し、最優秀案についてスタジアム内サインへの採用を、検討いただけることとなった。

学生には

学外の施設管理者の方々の意見  
学外の障がい者の方々の意見  
を聞く、よい機会となった。



入賞した3名の記念撮影

コンペ企画・実行：

古賀 誉章（地域デザイン科学部 准教授）  
土橋 喜人（地域デザイン科学部 客員教授）  
野原 康弘（地域デザインセンター コーディネーター）  
矢口 奈緒美（建築都市デザイン学科 4年）

# バリアフリー ピクトグラム デザイン コンペ

**課題: バリアフリートイレの左右勝手をわかりやすく伝える  
ピクトグラムデザインを提案してください。**

## 【趣旨】

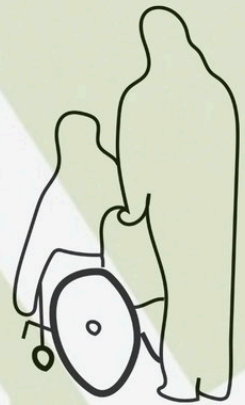
今では色々な場所で見られるようになった「バリアフリートイレ」。便器の左右どちらかに壁があり、L字の固定手すりがついていることが多い。反対側には介助者が立てる空間があって、はねだしやはね上げ式の手すりがある。壁とL字手すりのほうが利便性は高く、特に左右半身が不自由な人の場合は、不自由でない側に壁があるほうが使いやすい。したがって、バリアフリートイレは左右どちらの勝手トイレも設けることが望ましい。

ところが、左右勝手のトイレが、同じ場所ではなく、離れた場所にあることも少なくない。そのため、あらかじめどこにどちら勝手のトイレがあるのかを、マップや掲示サインなどでピクトグラムを使ってわかりやすく情報提供すると効果的である。

ただ、トイレの左右勝手を示すピクトグラムは、いまだに統一されたデザインはない。そもそも何をもって左・右と言うのかも問題である。言葉や文字のわからない人もいる。そこで、**バリアフリートイレの左右勝手をより多くの人にわかりやすく伝えるピクトグラムのデザインを募集**するものである。



あのトイレは  
どっち勝手？



## 【応募資格】

宇都宮大学の学生 および 本学学生を含むグループ

- \* 学生には大学院生も含む。
- \* 本学学生がいれば、本学以外の人との共同も可。
- ただし、何らかのデザインを生業とする社会人は除く。

## 【付帯条件】

大きさ 20cm角程度

色はグレースケール

左右1組のピクトグラム

- \* ピクトグラムの設置場所については自由に想定して構わない。

## 【提出物】

①ピクトグラムの画像ファイル(形式: jpeg, png, tiff, pdf)

②400字以内の説明文

- \* オリジナルで未発表のものに限る。
- \* 応募者が特定可能な表現は厳禁。
- \* 解像度は300dpi以上とする。
- \* 同一人の複数案応募は禁止。

## 【賞】

最優秀賞1点、優秀賞数点

## 【審査員】

土橋喜人 (地域デザイン科学部 客員教授)  
大塚訓平 (NPO法人アクセシブル・ラボ 代表理事)  
大森宣暁 (地域デザイン科学部 教授)

## 【応募登録・応募締切】

応募の意思がある者は、【2022年2月20日(日)】までにC-Learningで受講登録を行うこと。

\* CLの講義コードは【R420031】

\* グループ内の誰か1名が登録すればよい (CLアカウントのある者)

\* コンペに関する情報(質疑回答など)はCLを通じて流すので、早めに登録を。

提出物の締切は、【2022年2月23日(祝・水) 24時】とする。

## 【特記】

最優秀作品は、実際に設置される可能性があります。実現に必要な修正や無断転用防止のため、入選作の著作権はコンペの主催者が所有しますが、応募者の権利には配慮します。



## 【主催】

宇都宮大学地域デザイン科学部附属  
地域デザインセンター  
(担当: 古賀誉章・土橋喜人・野原康弘)

## 【お問い合わせ】

・受講登録後のC-Learningから「連絡・相談」でお問い合わせください。  
・もしくは、地域デザインセンターに直接お問い合わせください。  
(TEL: 028-689-6238)